
RUU

蛇いちご

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

R U U

【コード】

N 3 4 2 3 J

【作者名】

蛇いちじ

【あらすじ】

無とは僕で。僕は無。僕について僕は何も知らない。

廃墟

僕はRUU。

大好きなことは自分のことを罵声すること。

何でそんなことをするかだつて？

だって誰も僕を見てはくれないから。

時は白銀には程遠い粉雪が舞踊る1月。

RUUは一人で廃れかけた公園のベンチにまたがっていた。

背もたれさえも失った無惨な姿が又がることによって心なしか虚像が浮かび上がるのである。

RUUはその物を誇らしげに微笑しては腰を振り、声をあげさせた。

ギーコ、、、ギーコ、、、

今にも壊れてしまいそうな切ない音。

RUUは何を考えているのか。

一般の人間は今にも崩壊しそうな物にはあえて触れない。
なぜ？

無くなることに自分を関わらせたくないから。

ある日のRUUがそんなことを口走っては、ふふふっと見透かした
ような冷めた笑いをこぼしたことがあった。

では、RUUに問うよ。

『君にとって無とは？』

RUUの長く棒のような脚がぴーンと伸びる。

その行動は大きな悲鳴と共に崩れ落ちた。

『僕。』

恐ろしいほどの満面の笑みでRUUは答えるのである。

それをRUU自身はぞくりと鳥肌をたてずにはいらなかった。

誰もRUUを批判しない。

誰もRUUを見ようとはしない。

RUUは自身の体を強く抱きしめる。

大丈夫。

ゴールは目前だ。

早ければ明日だ。

R U Uの瞳の奥で何かが光り輝く。

無残な残骸をみつめながら。

夜がきて。

朝がきて。

僕はひだりの小指に輝くピンクリングを飾る。

月の光ではシルバーに。

太陽の光ではゴールドに。

そこにはR U Uと掘られた跡。

僕ははにかむ。

待ってるよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3423j/>

RUU

2011年1月19日02時21分発行